

TA-DA5500ES

接続・設定ガイド

この接続・設定ガイドでは、スーパーオーディオCD/CDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、スピーカー、アクティブサブウーファーを接続して、マルチチャンネル音声を楽しむときのつなぎかたの例を説明しています。その他の機器のつなぎかたについて詳しくは、取扱説明書をご覧ください。



スピーカーを設置する

スピーカー、他機と接続する

接続の最後に電源コードをつなぐ

自動音場補正機能を使ってスピーカーを設定する

他機の設定をする

スピーカーを接続する

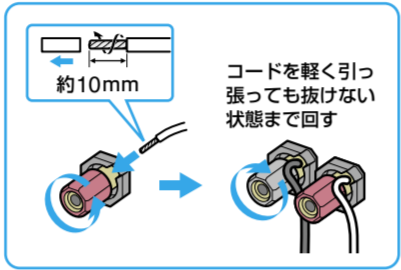
お手持ちのスピーカーの数と種類に合わせて、必要なスピーカーを接続してください。

スピーカーコードについて

- スピーカーコードは部屋の広さに合わせて必要な長さのものをご用意ください。
- スピーカーコードはコードに文字、線などがある方を－（マイナス）側に接続するなど決めておくと、＋と－を間違わずに接続できます。

スピーカー端子について

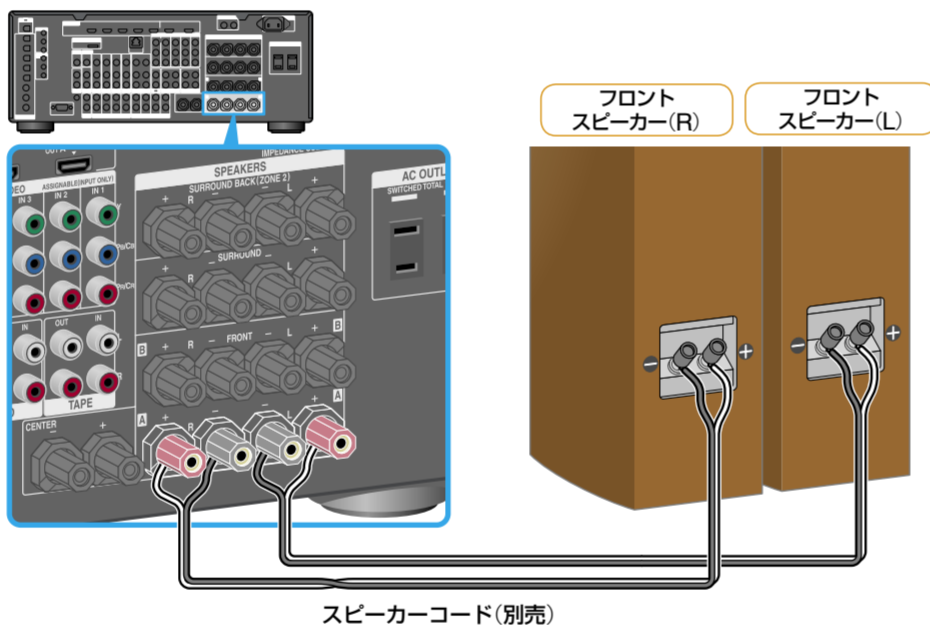
- スピーカーの⓪端子はアンプの⓪端子に、⓪端子は⓪端子に接続してください。
- スピーカーコードの接続のしかたは、下のイラストや別紙のスピーカー接続のご注意をご覧ください。



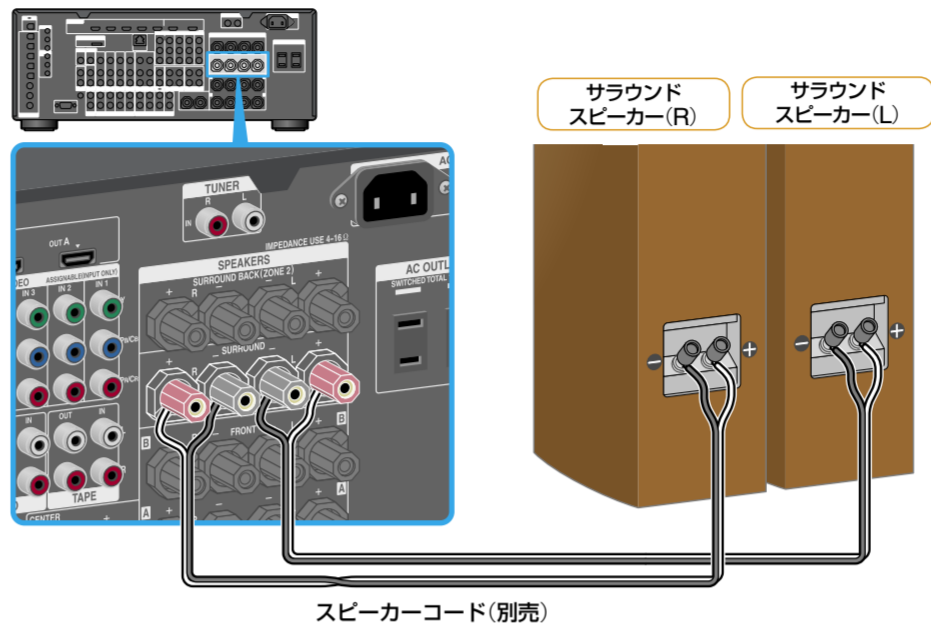
SPEAKERSスイッチについて

使用するフロントスピーカーシステムを選べます。詳しくは、取扱説明書の「準備6:スピーカーを設定する」をご覧ください。

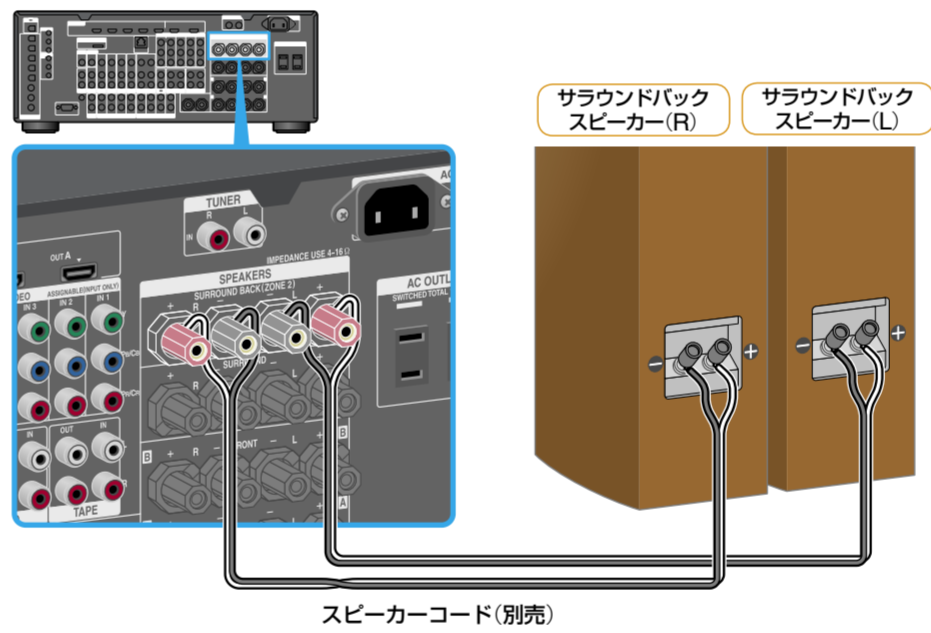
A B フロントスピーカー (L/R)



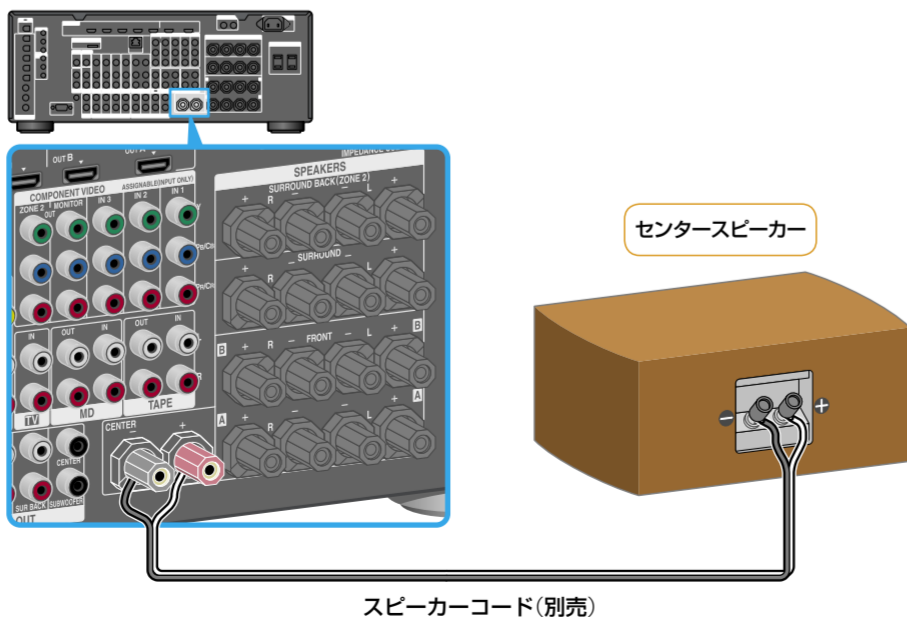
D E サラウンドスピーカー (L/R)



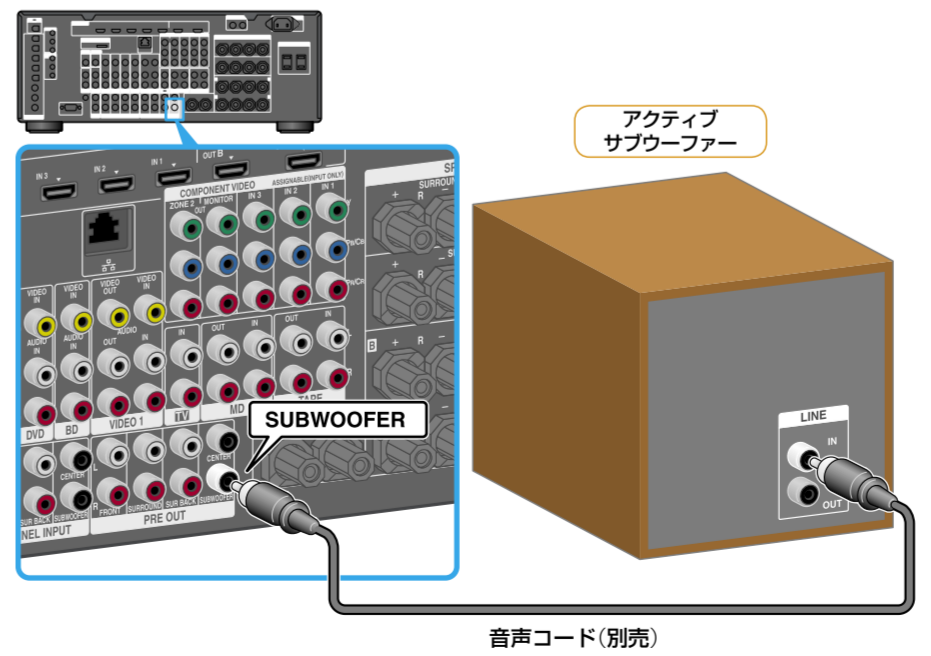
F G サラウンドバックスピーカー (L/R)



C センタースピーカー



H アクティブサブウーファー

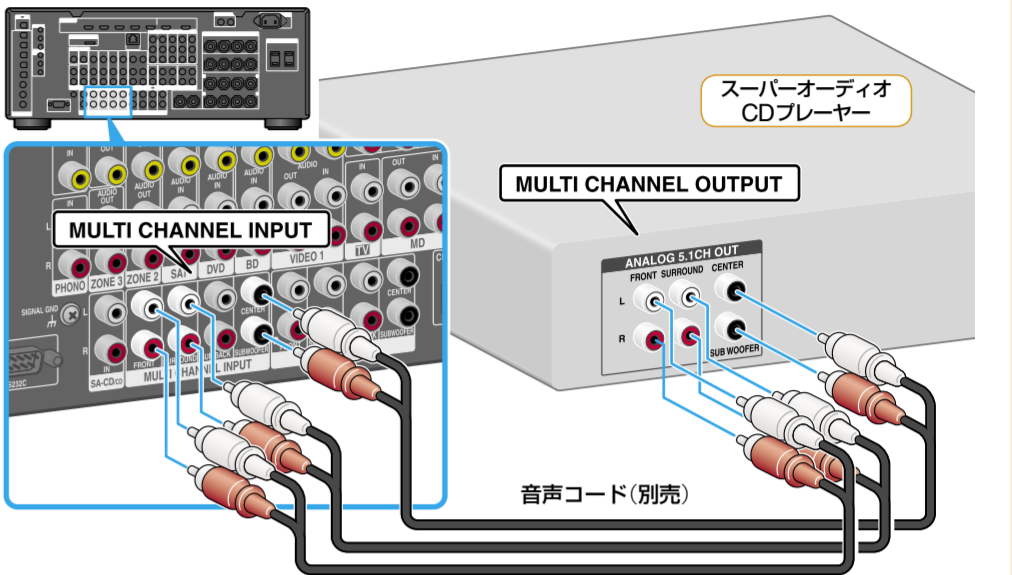


他機と接続する

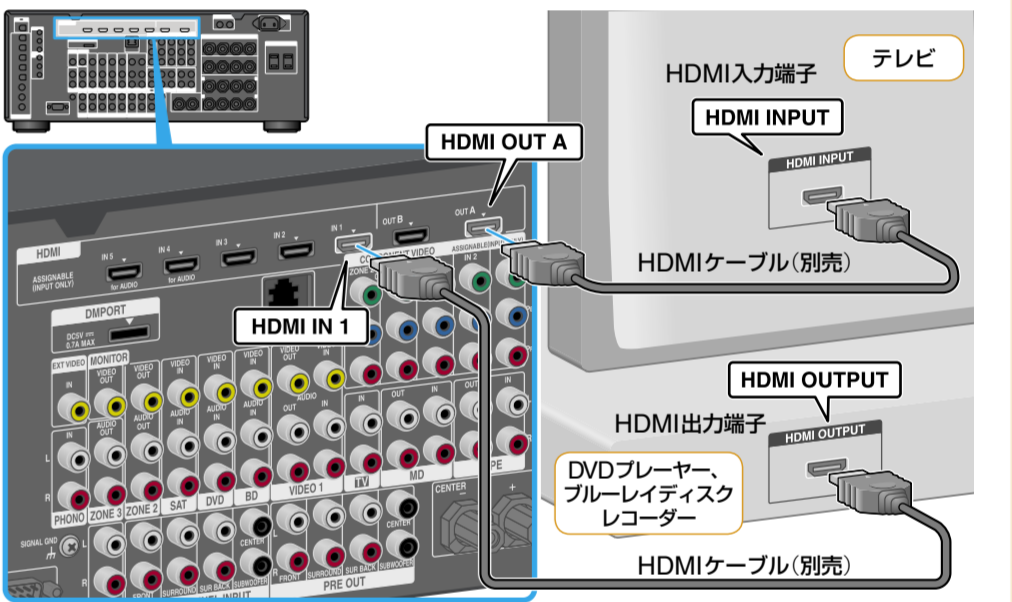
本機とお手持ちの機器のつなぎかたの例です。他の接続のしかたについては、取扱説明書の「接続と準備」の「準備3c」および「準備4」をご覧ください。

本機には映像信号の変換機能があります。詳しくは、取扱説明書の「3b: 映像機器を接続する」をご覧ください。

スーパーオーディオCDプレーヤー



映像機器

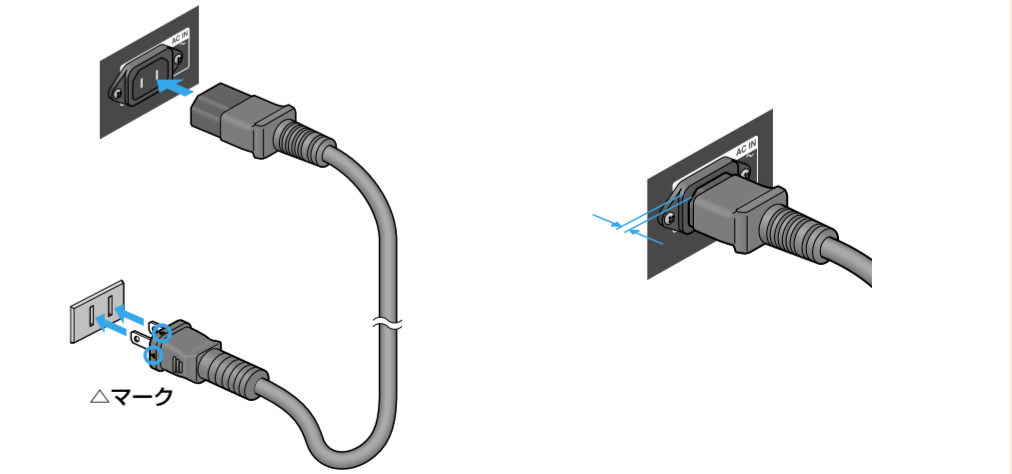


接続の最後に電源コードをつなぐ

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

付属の電源コードを本機後面のAC IN (100 V) 端子に接続し、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。

本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しく接続されています。



ちょっと一言

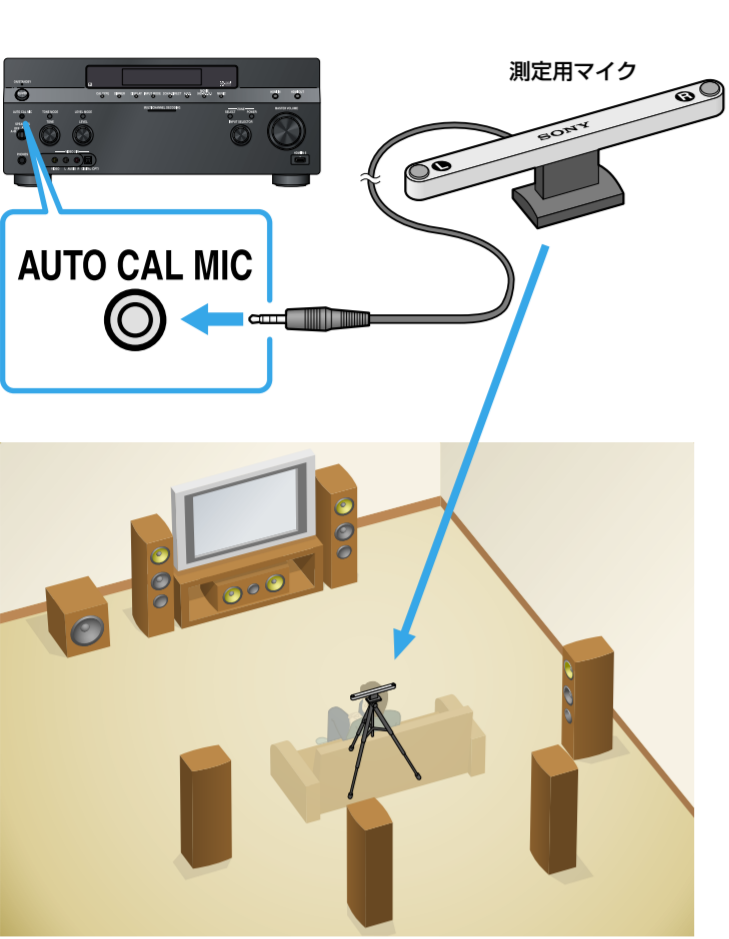
付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。

自動音場補正機能を使ってスピーカーを設定する

本機の「自動音場補正機能」を使って、リスニング環境に適したスピーカー設定を自動的に行います。

1 測定の準備をする

2 測定する



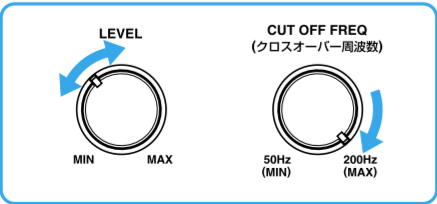
ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア(機器の設置エリア)の外側に出てください。

- 1 **スピーカーとテレビを設置・接続する。**
詳しくは、おもて面をご覧ください。
- 2 **測定用マイク(付属)を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。**
AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 3 **測定用マイクを設置する。**
測定用マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。測定用マイクのLをフロントスピーカーLに、マイクのRをフロントスピーカーRに合わせてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量はボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ(無効)にしてください。



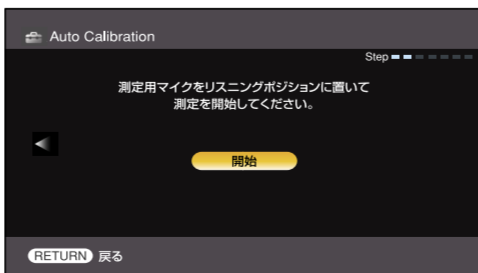
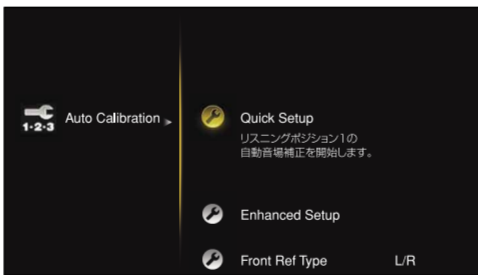
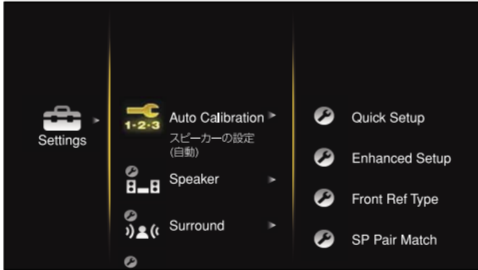
ご注意

お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

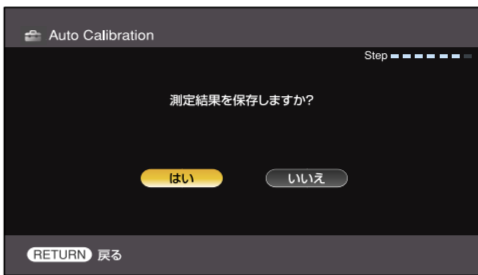


測定項目: スピーカーの有無、スピーカーの極性、スピーカーの距離、スピーカーのサイズ、スピーカーのレベル、周波数特性

- 1 **本機とテレビをつなぐ。**
詳しくは、本体取扱説明書の「準備2:テレビを接続する」をご覧ください。
- 2 **本機とテレビの電源を入れる。**
メニューを表示できるように、テレビの入力を切り換えてください。
- 3 **MENUを押す。**
テレビ画面にメニューが表示されます。
- 4 **↑/↓をくり返し押し、[Settings]を選び、⊕または→を押す。**
Settingsメニューのリストが表示されます。
- 5 **↑/↓をくり返し押し、「Auto Calibration」を選び、⊕または→を押す。**
- 6 **↑/↓をくり返し押し、「Quick Setup」を選び、⊕を押す。**
測定できる項目が表示されます。
- 7 **↑/↓をくり返し押し、測定したくない項目を選び、⊕を押してチェックを外し、→を押す。**
測定開始の確認画面が表示されます。

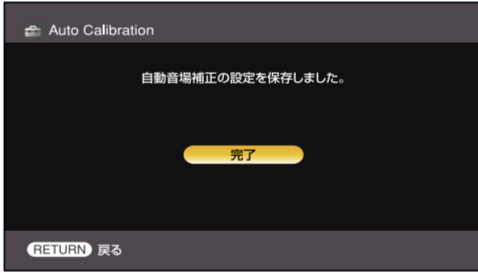


- 8 **「開始」を選んで、⊕を押す。**
5秒後に測定が開始されます。測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。
- 9 **「次へ」を選んで、⊕を押す。**
- 10 **←/→をくり返し押し、「はい」を選び、⊕を押す。**
補正タイプの選択画面が表示されます。



- 11 **↑/↓をくり返し押し、補正タイプを選び、⊕を押す。**
- | 補正タイプ | 説明 |
|-----------------|---------------------------------|
| Full Flat | 各スピーカーの周波数特性を平らにします。 |
| Engineer | ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。 |
| Front Reference | すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。 |
| OFF | 自動音場補正のイコライザーをオフにします。 |
- 測定結果が保存されます。

- 12 **→を押す。**
終了画面が表示されます。
- 13 **⊕を押す。**



警告が出たときは

手順9でテレビ画面に「測定は終了しましたが、測定結果に注意事項があります。確認しますか?」というメッセージが表示され、「はい」または「いいえ」で警告を確認するかどうかを選べます。
「はい」を選んだときは、テレビ画面の指示に従ってください。
警告やエラーについては、本体取扱説明書「準備7:自動でスピーカーを設定する(自動音場補正機能)」の「自動音場補正後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

ちょっと一言

スピーカーのサイズ(LARGE/SMALL)は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speakerメニューで設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

他機の設定をする

本機につないだ機器を再生するときは、スピーカーから正しく音を出すために各機器側の設定も必要です。以下はソニー製機器の場合の設定方法です。各機器の設定方法について、詳しくは各機器の取扱説明書を参照してください。

ソニー製スーパーオーディオCDプレーヤー

必要に応じて適当な再生モード(マルチチャンネルか2チャンネル)を選んでください。2チャンネルを選んでいないと、フロントスピーカーL/Rからしか音が出ないことがあります。

設定が終わったら

これで本機をお使いいただく準備ができました。
さらに詳しい操作については取扱説明書をお読みください。